

I. クリニカルラダー（看護師の実践能力段階的システム）について

クリニカルラダーは「看護の質の向上」を目的に、臨床ナース一人ひとりが臨床における看護実践能力を高められるよう支援していくシステムであり、看護実践能力は、基礎教育で学習して知識・技術をもとに、実際に臨床で経験する中で知識を積み重ね高められていくものである。また、クリニカルラダーはレベルⅠからレベルⅣへと看護実践能力を高めていくシステムである。受け持ち患者の看護体験を通して各自の実践能力を認識することを重視し、それぞれの個性的な能力を尊重する。発達モデルのレベルは優劣のあるレベルというというとはえ方ではなく、能力を獲得していく過程の方向(膨らみ)と捉える。

II. クリニカルラダーシステムの概要

1. 啖生会脳神経外科病院の理念

誠実と信頼の医療

2. 啖生会脳神経外科病院看護部理念

専門職業人として常に、看護の本質を迫及し、患者様の人権を尊重し、地域に根ざした安心、安全、満足度の高い看護を提供します。

3. 看護部目標

- 1) 患者サービスに関する視点
- 2) 自己啓発に関する視点
- 3) 業務改善に関する視点
- 4) 病院経営の視点

4. クリニカルラダー目標

1) 目標

一人ひとりの看護師の看護実践能力の習得段階を評価し、看護実践能力のレベルアップを図り、看護の質を高める。

- ① 看護師の看護実践能力を評価し、動機づけと教育目的をサポート基準にする。
- ② 看護師の個々のキャリア開発に役立てる。

5. 対象

看護師・准看護師

6. クリニカルリーダーシステムの構築としくみ

〔レベルⅠ〕 卒後2年目

定められたマニュアル（看護手順、検査手順、業務マニュアルなど）に沿って、あるいは部分的に指導を受けながら日常の看護が実践できる。

〔レベルⅡ〕 卒後3年目以降

- ① 経験に基づいて何が重要か認識でき、日常の看護業務が自立して実践できる。
- ② 基本的な知識・看護技術を習得し状況に応じて一人で看護過程を展開できる。
問題を明確にし、優先順位を考慮し計画的に行うことができる
- ③ 後輩指導ができる

〔レベルⅢ〕 卒後4年目以上

- ① 経験に基づいて状況を全体として把握し、長期的な見通しができる。
- ② 看護実践においてリーダーシップを発揮できる
- ③ 看護実践の中でリーダーとして全体を把握し、看護過程の展開ができる。
- ④ 新人指導やスタッフ指導を通して、指導者としての能力を高めていけることができる。
- ⑤ 全体を把握するリーダーとしての能力や指導力を身につけることができる。

〔レベルⅣ〕 卒後7年目以上

- ① わずかな手がかりで状況を直感的に把握し、問題領域に的を絞ることができる。
- ② 看護ケアシステムにおいて看護の立場でリーダーシップを発揮できる。
- ③ 看護実践や新人指導、スタッフの教育などでリーダーシップを発揮し人的資源としてかかわることができる。
- ④ 看護師長、主任の補佐として患者を中心に家族、コメディカルとかかわり、全体を見通して問題解決に臨むことができる。